

# 2019年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学国語）

学校名 逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	結果は概ね全国・県を上回る、あるいは同等の正答率。
話すこと 聞くこと	○「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」は正答率が83.1%と高い。自分の理解が正しいかどうか質問することができる児童が多い。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」は約50%と低い。誤答の内容としては、答えの条件1は満たしているが、条件2「インタビューとしてふさわしい言葉遣いで書いている」を満たしていない。授業の中でインタビューをする機会が少ないことが理由として考えられる。また、無回答率が約20%と高い。自分の考えや思いを表現することが苦手な傾向が伺える。
書くこと	○「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」の無回答率が0となっていて、全国より高い。目的に合った適切な資料を選ぶことが得意なようである。 ●「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」の正答率が約30%と正答率が低い。自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが苦手な傾向が伺える。
読むこと	○「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」の正答率が約90%と高い。1年生より読書の時間を多くとっているためと考えられる。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」が約70%と低い。自分の考えの理由を明確にし、読むことが苦手な傾向が伺える。
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	○漢字を正しく使う問題に対して、全国より全部正答率が高い。漢字定着率が高い児童が多い。 ●一方で無回答率が高い。漢字が定着していない児童も多い。定着率の高い児童と低い児童がどう関わり、全体の底上げをしていくかが課題として考えられる。
児童質問紙 国語に関する質問 問37～45	・国語の授業は将来の役に立つし、大切と思っている一方で、好きにはなれない児童がいる。 ・質問番号（42）より、目的に応じて、自分の考えを話したり、書いたりしている児童は全国より多いことがわかる。

# 2019年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（小学算数）

学校名 逗子小学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

結果の概要	結果は概ね全国・県を上回る、
数と計算	<p>○「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる」は約80%と高い。棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができる児童が多い。</p> <p>●「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」の正答率が約30%と低い。計算の仕方についてまとめることが苦手。授業で計算ができるできないだけでなく、なぜそのように考えられるのかについてまとめる時間が必要である。</p>
量と測定	<p>●量と測定の問題3問とも全国より%が低い。どれも求め方や理由を記述する問題である。</p>
図形	<p>○「台形について理解している」の正答率が97.3%とほとんどの児童が台形について理解している。</p> <p>●「図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる」の正答率が約60%となっている。図形の性質に着目し、他の図形を構成することが苦手な傾向が伺える。</p>
数量関係	<p>○「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」が全国より約8%高い。整数と小数の計算が身につけている児童が多い。</p> <p>●「資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる」が全国より若干低い。選んだわけを記述することが苦手な児童が多い。</p>
児童質問紙 算数に関する質問 問46～58	<p>○算数の授業が好きで内容がよくわかると答える児童が全国より10%前後高い。一方で将来社会に出たときに役に立たないと思っている児童が全国より多い。</p> <p>●算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書くことが全国より低い。</p>

## 2019年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

学校名 逗子小学校

特徴的なことや課題と考えられること等

○質問番号（17）「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」（18）「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」で肯定的に捉えている児童が全国より上回っている。学校以外（塾など）で学習を進めている児童が多い。

○質問番号（35）「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」（36）「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか」で肯定的に捉えている児童が全国より上回っている。自分で考え、課題を解決しようとする児童が多い。

●質問番号（6）「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」や（7）「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」で肯定的に捉えている児童が全国より10%以上低い。児童との関わり方を変えていかないといけない。

●質問番号（23）「今住んでいる地域の行事に参加していますか」より地域の行事に参加していない児童が多い。

●質問番号（32）「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」（33）「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか」（34）「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」で肯定的に捉えている児童が少ない。学級やグループ単位で学校生活をよくしていこうという意識が薄い。

担任と児童の関わる場を意識的に設定することや児童たちが自分達で物事を決めていくことができる時間を増やす必要がある。

## 2019年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

学校名 逗子小学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

○国語では、自分の考えを明確にしたり、まとめて書いたりすることが苦手な児童が多いことが課題として挙げられる。そのため、どのように考えを明確にしたり、まとめたりしたらいいのかを指導していく必要がある。

○算数では、理由やわけをまとめることが苦手な児童が多いことが課題として挙げられる。誤答の理由としては、必要な条件をすべて含めていないということである。そのため、選んだ理由やわけをまとめるときに、いくつか条件を設定して、その条件を満たした文章をまとめるよう指導していく必要がある。